

大規模災害が観光需要に与える影響の評価方法の検討

Assessment for a Loss of Tourism Demand Caused by a Large-scale Disaster

○西村泰紀・梶谷義雄・多々納裕一

○Taiki NISHIMURA, Yoshio KAJITANI, Hirokazu TATANO

Natural Disasters such as a large-scale earthquake disaster can often reduce the number of tourists even in not seriously damaged places. It is said that this damage is caused by the psychological reasons such that people feel uncertainty in the information about a level of service and better refraining an amusement including traveling. On the other hand, many people can come to some regions for a recovery after a disaster. The number of people who visit a damaged area depends on these complicated factors. Therefore, the loss of tourists after an earthquake disaster are not even quantified and investigated. In order to understand the loss of tourists in more correct manner, this study focused on hotel business and tried to reveal the loss of tourists by using methods on time-series analysis and a questionnaire survey.

1. はじめに

我が国は2011年3月11日に発生した東日本大震災をはじめ、震災により過去数度にわたり多大な人的、経済的被害を受けてきた。こうした震災が与えた影響の一つに、震災後の観光客入込数の落ち込みが挙げられる。この現象は直接的な被害が比較的少なかった地域においても発生することがあり、平成23年度の観光施策においても様々な活動の自粛等や旅行者の減少が報告されている。

これらの観光需要の減少要因としては、被災地を中心とした観光サービスの停止等による直接的な影響もあれば、周辺の被害のなかった地域にも発生する風評被害、全国的な娯楽活動の自粛など様々な要因が挙げられる。また一方で観光需要とは異なるが、ボランティアや建設業等の人々による復興需要により、被災地を訪れる人々が一時的に増加するといった現象も存在する。震災後はこれら複数の様々な要因が組み合わさり、当該地域を訪れる人々の数は変動すると考えられるが、報道によると風評被害により観光客の減少に苦しむ地域、影響が比較的軽微な地域、復興需要により観光需要減少の一部を補う地域等、影響の受け方は地域により様々である。観光産業への補償や観光需要落ち込みの対策のために震災の影響を正しく把握することは必要であると考えられるが、こうした分析をするためには、震災後の被災地や被災地周辺、また全国の観光需要に対する時系列データの分析だけでなく、当該地域の観光需要の変

化を調査することが必要となると考えられる。

そこで、本研究では東日本大震災を対象とし、比較的データの公表が早く、全国的に整備されている観光庁の宿泊旅行客統計の時系列パネルデータを用いた時系列分析と、東日本地域の宿泊業者に対し実施したアンケート調査の結果の分析を合わせることで、被災地の観光需要減少の定量化と要因分解を試みる。

2. 分析結果

本研究の分析結果の一例を図1に示す。本図の説明ならびに復興需要、対策の効果等の要因分解の結果については講演時に譲る。

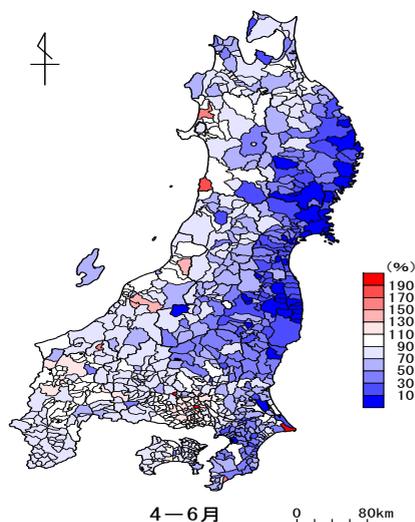


図1. 2011年4月から6月の需要減少の分布